

# Y20 SUMMIT 2023

## 報告書

G7 / G20 YOUTH JAPAN



# 目次

1. サミット概要	．．． P.3
2. 日本代表団	．．． P.4
3. Y20 サミット活動報告	．．． P.5
4. 個人所感	．．． P.14
5. 協賛・謝辞	．．． P.19

# Y20 サミット 2023 概要

## 【Y20サミット概要】

Y20(Youth 20)は、G20の公式関連組織（エンゲージメントグループ）の一つであり、G20各国の30代以下の研究者やビジネスリーダーが集い、議論の成果を政策提言書（コミュニケ）に纏め、G20に提出しています。

## 【Y20 Summit 2023 主催】

Y20 India organizing committee (Shyama Prasad Mukherjee Research Foundation)

## 【開催日程】

8月16日（水）～21日（金）

## 【開催地】

Uttar Pradesh州Varanasi

## 【アジェンダ】 (in alphabetical order)

Climate Change and Disaster Risk Reduction: Making Sustainability a Way of Life

Future of Work: Industry 4.0, Innovation & 21st Century Skills

Health, Well-being, and Sports: Agenda for Youth

Peace-building and Reconciliation: Ushering in an Era of No War

Shared Future: Youth in Governance

## 【メディア掲載】

The Times of India, Hindustan Times, Deccan Heraldなどを含むインドの全国紙に多数情報掲載あり



# 日本代表团

【Climate Change and Disaster Risk Reduction】

代表团长

細井彩世 Sayo Hosoi

名古屋大学 大学院生



【Future of Work】

伊藤直輝 Naoki Ito

Northwestern University 学部生



【Health, Well-being, and Sports】

上野啓太 Keita Ueno

Minerva University 学部生



【Peacebuilding and Reconciliation】

原口美優 Miyu Haraguchi

University of Oxford 大学院生



【Shared Future, Youth in Governance】

サーカー壽梨 Juli Sarkar

会社員

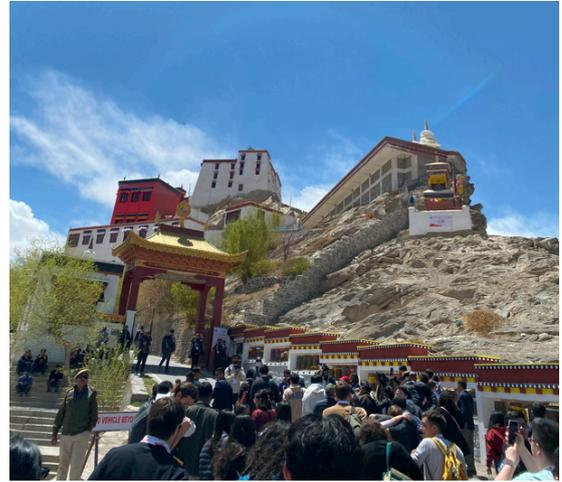


# Y20 サミット 2023 事前イベント（プレサミット）

## プレサミット

2023年4月25日～28日 (Leh, Ladakh)

8月のサミット本会合に先立ち、ラダック地方でプレサミットが開催されました。プレサミットでは5つのテーマが指定され、代表団はテーマごとに分かれて議論を行いました。結果、サミット本会合に先立ち、論点を整理することで、以後のオンライン交渉のための下準備ができました。なお、ラダックは富士山の9合目に相当する標高3500mに位置し、「天空の楽園」と評されるなど風光明媚な場所です。住民の多くがチベット系で、プレサミットの期間中には、数々のチベットの聖地に訪れる機会もありました。



# Y20 サミット 2023 事前イベント

## "Y20 INDIA SUMMIT 2023 DISCUSSION EVENT ～日本の若者の声をG20に届けよう～

本イベントでは、Y20サミットで指定されたテーマについて、Y20日本代表団が紹介し、その後内容について一般参加者と意見交換を致しました。活発な質疑応答を通じて代表団と参加者の交流が深まり、代表団も自らが選んだテーマについて理解を深めることができました。なお、イベントには日本国内の参加者に限らず国外からも多くの若者に参加頂き、総じて8月のY20サミットに若者の声を届ける上で非常に有意義な時間となりました。

### DAY 1

2023年6月17日 (オンライン)

ディスカッションテーマ：

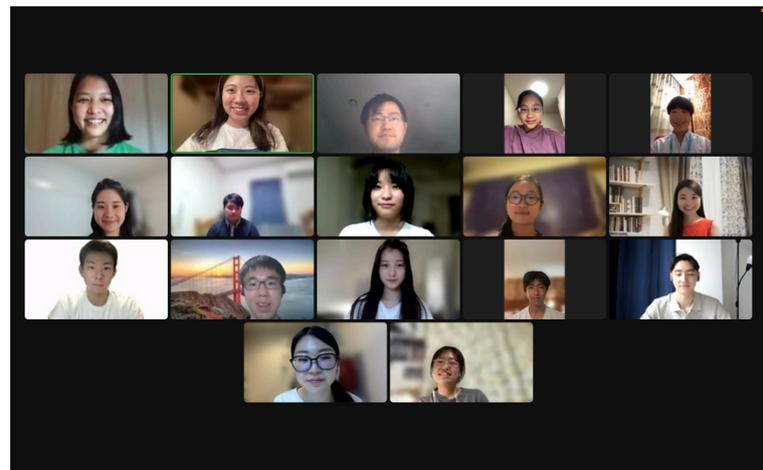
- 1) 【CLIMATE CHANGE & DISASTER RISK REDUCTION】
- 2) 【HEALTH, WELL-BEING, SPORTS】
- 3) 【PEACE-BUILDING & RECONCILIATION】



### DAY 2

2023年6月25日 (オンライン)

- 1) 【FUTURE OF WORK】
- 2) 【SHARED FUTURE】



# Y20 サミット 2023 アンケート調査

## 【Climate Change and Disaster Risk Reduction】

「日本全体として気候変動対策は進んでいると考えますか」という質問に対して、半分以上が進んでいると回答しました。さらに、エネルギーの安定供給を最も重要視する人が100%と多いものの、経済成長と環境保護を最も支持する人も90%以上いることが明らかになった。各種脱炭素技術の中では、太陽光発電といった自然エネルギーが重要との回答が最も多かった。

## 【Future of Work】

「自身にとって働くことの意義」として、ほとんどが「一定の収入を得て衣食住を満たすための手段」と「プロフェッショナルとしてのキャリア形成自体が目的」を選択。働き方改革法や労働派遣法などの各種労働法制度の改変に関して、自身の理解に有効な情報を得るための媒体についての質問では、職場や各種ウェブサイトといった従来の媒体を選択する人も多い中、80%以上がソーシャルメディアを挙げました。

## 【Health, Well-being, and Sports】

医療政策でデジタル技術を使うことにおいては、直近のマイナンバー制度での問題等を踏まえ、「個人情報漏洩などの危険性を徹底的に検証してからのみ、使用してほしい」という回答が半数以上を占めました。また、メンタルヘルスに関するサービスについて、「自身の状況が周りに知られてしまうことの懸念」、「利用方法やサービス内容の不明瞭さ」、「サービスの効果への疑問」が利用する上での抵抗になっていることが明らかになりました。

## 【Peace-building and Reconciliation】

日本の平和の脅威について、「サイバーセキュリティ」、「気候変動・自然災害」、そして「外交・国際関係の悪化（ウクライナ情勢等も含む）」が最も重要なリスクと捉えられていることがわかりました。「平和構築に貢献するために、あなたにとって重要な要素は何ですか。」という質問に対して、60%以上が「教育・学びの場」、約半数が「市民レベルでの積極的な若者の交流」と回答しました。

## 【Shared Future】

「行政において若者の意見を必ず取り入れる仕組みを設ける必要があると思いますか?」という質問に対して、70%が「はい」と回答しました。中でも「若者向けオンラインプラットフォーム開設」が最も必要な仕組みだと考えられていることがわかりました。また、回答者の多くは選挙期間中の候補者に関するフェイクニュースに関心を寄せており、「ガイドライン策定」や「ラベリング」、「選挙期間中の中立な対策委員会の設立」等の意見が出ました。

# Y7 サミット 2023 本会合

16TH AUGUST

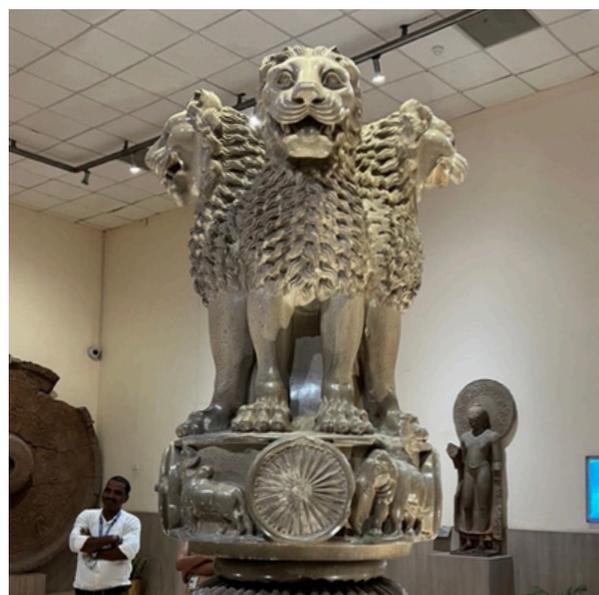
初日、各国の代表団が続々とヴァラナシ空港に到着しました。空港では、音楽や踊りのパフォーマンス、ビンディやスカーフの贈呈など、温かい歓迎を受け、初日からインドのおもてなしを最大限に感じる事ができました。3月以降オンラインで議論を重ねた仲間と対面し、互いに喜びを分かち合いました。ホテル到着後はY20とUNESCO共同主催の任意参加イベントが企画されましたが、私は、Sant Atulanand Convent Schoolという学校で行われた、中高生に向けた平和構築に関するパネルディスカッションに参加しました。一緒に参加したイタリア、アメリカ、EU、ロシア、インドの代表団は、それぞれ政府関係者や研究者など多彩なバックグラウンドを持ち、学生側からは、国際機関が果たす役割、経済が平和に与える影響、アドボカシーの力など、幅広いテーマに対して鋭い質問が出され、大変刺激的で有意義な時間となりました。



# Y7 サミット 2023 本会合

17TH AUGUST

2日目、サミットの公式日程1日目は、インドに関する理解を深める時間を設けて頂きました。午前中には、インド最高峰の理系大学群（Indian Institute of Technology）の一つであるバナラス・ヒन्दゥー大学（Banaras Hindu University）を訪問しました。スーパーコンピューティングセンターをはじめとする大学の研究施設を見学し、先端技術が日々どのように使用されているかを紹介頂きました。IITの学生たちが自身の研究分野や興味について情熱的に語る姿が特に印象的でした。午後には、釈迦が初めて説法を行ったとされる仏教の聖地、サルナート（Sarnath）を訪れました。インドの国章にも象られる四頭の獅子像やDhamekh Stupaと呼ばれる仏塔の遺跡を見学し、仏教とインドの関係についてガイドの方が丁寧に教えて下さりました。なお、8月の北インドは雨季であり、この日は道路が冠水し車が水に浸かるほどの大雨が降りました。実際にインドに對面が集まる意義を感じることができた一日となりました。



# Y7 サミット 2023 本会合

18TH AUGUST

朝6時からヨガセッションに参加した後、まずは開会式(Inaugural Ceremony)をコンベンションセンターで行い、Uttar Pradesh州の政府高官が出席しました。この日は Y20 Summit 2023 Indiaの交渉が開始されました。4月開催のプレサミットの内容をもとに何ヶ月間もオンラインで交渉を重ね、インド到着後には非公式な場での交渉を実施していましたが、実際に対面で議長を含めた交渉を初めて実施しました。各国代表はそれぞれの国の優先事項や譲れない事項を大事にしながらも現実的かつ具体的な行動に繋げられるような政策提言を提案しました。限られた時間の中で真剣に、時にはぶつかりながらも交渉は進んでいきましたが、総じてスタートは好調でした！ ※ 個人的には、議論において、「コミュニティ」に焦点を当てたガバナンスに関する提言、およびテクノロジーに関する提言内容に注力しました。



# Y7 サミット 2023 本会合

19TH AUGUST

この日は前日に引き続きコンベンションセンターにて公式の交渉が行われました。5つのテーマそれぞれの会議場に分かれ、17時の提出締め切りに向け早朝から議論が始まりました。交渉の流れとしては、プレサミット以降のオンラインでの議論と前日までの調整でまとめた2ページほどの原案をもとに、最終的にコミュニケに入れる文言を擦り合わせていきます。多種多様なバックグラウンドをもつG20の国々の間では、政策分野によっては大きく立場が異なるため、優先事項を整理しつつ合意点を探りながらの交渉となりました。各テーマ内での議論を終えた後には、分野横断型（クロスカッティング）の政策が議論されました。テーマごとに3つの最重要項目を提出し、各国の代表団長を中心に最終調整が行われました。その後はTaj Gangesに会場を移し、この日の最後のプログラムとなるGala Dinnerに参加しました。インドの伝統音楽や舞踊を鑑賞しつつ、各国の代表団との親交を深めました。



# Y7 サミット 2023 本会合

20TH AUGUST

19日の夜、各国の代表団長は、Gala Dinner後にコンベンションセンターに戻り、20日の昼ごろまで、分野横断型（クロスカutting）また、コミュニケ序文について議論を行いました。調印式前の最後の機会ということもあり、大変白熱して一睡もできずに議論は続きました。特に、民主主義の定義や、化石燃料の使用に関する議論は紛糾し、一時は、議長からY20 2023コミュニケは成立不可と判断が下されました。加盟国全てが合意をしなければコミュニケとして成立しないため、悔しさともどかしさに涙を流しホテルに戻りましたが、合意に向けた強い使命感から、再度ホテルロビーで話し合いを続け、最終的に、合意に辿り着くことができました。なお、団長以外の代表団メンバーは20日の寺院を訪れ、インドの文化を体験しました。汗と涙の結晶となったコミュニケの調印式を無事に終えた後は、コンベンションセンターからガンジス川に移動し、クルーズディナーに参加しました。ヴァラナシの美しい街並みを広大なガンジス川から目で見て、耳で楽しみ、舌で食を嗜み、まさにインドを五感で感じつつ、サミットの幕を閉じることができました。



# Y7 サミット 2023 事後イベント 報告会

11TH NOVEMBER

## 【概要】

日時：2023年11月11日（土）14時～16時（16時～17時交流会自由参加）  
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター/Zoom（ハイブリッド開催）  
タイムライン：

- 第1部 14:00-15:00 Y7サミット2023 概要報告/代表団パネルディスカッション
- 第2部 15:00-17:00 Y20サミット2023 概要報告/代表団パネルディスカッション
- 第3部 15:40～16:00 Y7Y20 summit 2024 代表団募集説明

## 【参加者】

人数：27名

## 【満足度】

5段階評価のアンケートを実施。

設問1: 報告会全体についての印象（当イベント全体を通しての満足度を5段階でお答えください）→8割以上が5を選択。残り全員が4を選択するなど、総じて高い満足度を得た。

設問2: Y7及びY20サミットについての印象（【サミット概要報告】【代表団パネルディスカッション】を通しての満足度を5段階でお答えください） Y7パートは8割以上が5を選択し、Y20パートは9割を獲得。

## 【感想一部抜粋】

社会人女性-「具体的なスケジュールや政策提言書を作成するにあたっての過程についての内容がとても興味深かったです」

社会人男性-「ユースの人口は世界規模でも多く、テーマごとに議論することは大きな問題なだけに一緒社会人としてにやっていきたいと思いました」

大学4年生-「大学で勉強していることが草の根などローカルレベルが多く、グローバルな視点で議論がされていることが新鮮でした」



# 個人所感（細井彩世）

世の中の環境意識が年々高まり、持続可能な開発に向けた地球規模の取り組みについての構想・実行が進展しています。2015年に国連でのSDGS採択、また、同年パリ協定発効を機に、政府や国際機関だけでなく民間企業や地方自治体レベルでの行動が加速してきました。

環境課題と防災の2つのテーマは、一国の範囲にとどまらない、国際社会における課題です。他国のY20代表と2023年春頃からオンラインで議論を重ねる中で、特に環境課題は緊迫した課題であり国家間協力が非常に重要であることを改めて実感致しました。本サミットでは、環境課題の文脈においては、いわゆる「グローバルサウス」の状況を視点に入れることを意識しました。カーボン・ニュートラル(CN)を目指す過程において、エネルギー安全保障をどう確保できるか。地政学的リスクや経済発展レベルの点で、ヨーロッパ諸国と日本を含むアジア諸国には大きな違いがあります。各国の社会課題や内情を踏まえて、CNを目指す道筋は必然的に異なってくることを提示することが重要だと考えました。具体的には日本が主催国となったG7サミット2023でコミュニケに入れられたVARIOUS PATHWAYS（多様な道筋）という言葉を入れることを意識するなど、一定の期間や一定の方法を押し付けるような提言を避けることを目指しました。防災の文脈においてはこれまでの日本が培ってきた経験やフレームワークを提案しました。2015年に宮城県仙台市で開催された「第3回国連防災世界会議」で採択された「SENDAI FRAMEWORK」を提示し、このフレームワークを国際社会全体で推進していくことを提言いたしました。一方で、専門的知識が必要とされるテーマでもあり、「ユースとしてG20コミュニケに新しく持ち込める視点とは何か」の意識を持ちつつも、若者独自の視点を加えることの難しさを痛感した論点でありました。野心的でありつつも、現実的な「ユースならではの」の視点に関しては、今後も考え続けていきたい課題であります。

本サミットでは、日本代表団団長という非常に光栄な任務を務める機会をいただきました。責任の重い大変な役割でしたが、それ以上に貴重な使命でした。各国の代表団団長が担うクロスカッティングは、最終日前日の夜中の12時から始まりました。クロスカッティングのみに留まらず、各テーマで合意できなかったいくつかの問題がこちらの時間に持ち越しされていたこともあり、議論は昼ごろまで続くなど大変白熱いたしました。

「誰も取り残されない国際社会の実現」という同じゴールに向けて議論をしているにもかかわらず、理想と現実が対立しうることを痛感したサミットでありました。共にサミットを乗り越えた日本代表団の4名、また、夢であったY20代表団としてのインドサミットへの参加に携わってくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。本サミットで培った経験を国際社会に還元できるように今後も精進して参ります。

# 個人所感（伊藤直輝）

ChatGPTを含む生成AIの台頭が現実となり、多くの人々にとって経済活動の大きな転換点と認識された2023年。先進技術による変革が労働の在り方を根本的に変えつつある現状は、まさに政府の役割の本質が問われている局面と言えます。混乱を最小限に抑え、市場経済の発展と個人の生活保障のバランスをとるための政策を実行することが、今後ますます肝要となるのではないのでしょうか。

私が担当した"Future of Work"は、サブタイトルとして"Industry 4.0, Innovation, and 21st Century Skills"を掲げており、主に以下の4つの論点に焦点を当てました：1.労働者のスキル向上、2.国際協力に基づく技術革新と発展、3.非正規雇用者の権利保護、4.スタートアップの促進。テクノロジー規制やテクノロジーが労働に及ぼす影響に興味を持つ私にとって、専門知識・経験の豊富な各国代表団との議論は、今後の公共政策の方向性についての視野を広げる貴重な機会となりました。議論を通じて、私は第2・4の論点に特に注力し、公平なデータの共有による公正な開発環境を基盤とした市場競争の促進と、その際の個人的権利尊重のあるべき姿に関する政策の提言に尽力しました。国を超えた人類の未来に焦点を当て、今後の世界経済を担う我々若者が必要と考える政府の役割について議論を重ねられたことに、非常にやりがいを感じられました。

しかし、全会一致による提言書の採択は成功したものの、それがG20でどのように受け入れられたのか、実際に声が届いたと言えるのかが不透明であった点は残念でした。Youth 20の目的と成果物の存在意義については、再度検討されるべきだと思います。また、サミットの開催されたVaranasiに加え、個人的に北インドの代表的な3つの都市（Delhi、Jaipur、Agra）も訪れました。これらの都市では、G20に関連する装飾やバナーが至る所に掲げられており、インドのG20を初めて主催することへの熱意と、これからの世界の発展をリードすることへの意志を強く感じ取ることができました。この経験を糧に今後も先端技術・労働経済・政府の関わり方に対しての自分なりの見解を深めると共に、社会的議論に一助できるよう精進していきたいと思います。このような貴重な機会を提供してくださった全ての方にお礼を申し上げます。

# 個人所感（上野啓太）

Y20サミットに参加するにあたって、若者としてG20に貢献できる付加価値は何か、という問いがテーマになりました。Health, Well-being, and Sportsは特に、様々な文脈で議論が行われており、Y20として、そして日本の若者の声を代弁するものとして、いかに重要だが関心が寄せられていない課題にスポットライトを当てられるかを考え、交渉にあたりました。

テーマの名前を見ると分かるように、今回のサミットでは医療と健康に関する広範な論点が議題に上がりました。医療制度のデジタル化やメンタルヘルスのサービス向上を初めとして、ジェンダー格差の解消、アルコールや薬物乱用の防止、運動による健康促進、また伝統医療に関する政策提言も行われました。全てに共通して、このテーマにおいては世界の若者が抱える健康問題という視点を持って議論が交わされました。私は特に、官民協力による若者の起業家精神を中心としたデジタルイノベーションの促進について、そしてUHC（Universal Health Coverage）の枠内でメンタルヘルスのサービスの位置づけを向上させることに焦点を当て、政策を提案しました。

このサミットで強い印象を抱いたのは、医療と健康というテーマは普遍的であるということでした。G20の枠組みをも超え、世界中の人々にとって共通の課題であり、多くの国々が同じ方向に向かっていくことを実感しました。しかし、現実の各国の状況には大きな差があり、最終的なコミュニケはどうしても抽象的な内容に留まってしまったことは大きな課題でした。日本という国が優れた医療体制を持っている一方で、世界の多くの地域では安心できる医療体制が実現されていない現実があります。恵まれた環境を持つ国として、世界での積極的な貢献が求められていると痛感しました。

なお、私は今年の1月から、所属するミネルバ大学のプログラムでインドのハイデラバードに一学期間滞在しておりました。インドの大都市に学生として居住した経験と、Y20の日本代表としてインドという国の文化や人との交流を受けることは全く異なるもので、双方を通して目まぐるしく状況が変わるインドという国について理解を深めることができました。こういった学びを報告会やワークショップ等を通して還元していけたらと思います。

これらの貴重な経験を通じて、私は今後も日本や世界の公共問題に対して積極的に関与し、貢献していく覚悟です。最後になりますが、今年の1月に代表団の一員になることが決まってから、サミットに向け様々なインプットを受ける機会や議論の場に参加させて頂きました。携わって下さった全ての皆様に深く感謝申し上げます。

# 個人所感（原口美優）

今回のY20サミットでは、初めて、平和構築が5つ目のテーマとして議論されました。今この瞬間イスラエルとハマスが衝突し、ウクライナでの戦争も続く中、平和を実現するために議論し、解決策を見出すことが急務となっています。同時に、最近では安全保障のリスクがさまざまな空間（現実世界、インターネット空間、宇宙など）において存在し、安全保障の性質そのものが変化していることから、平和を達成するとはどういうことかを深く考察する必要に迫られています。

私たちは「紛争の防止と平和構築における世界的な合意の促進」「グローバルノースとグローバルサウス間の公正な協力」「非国家主体による暴力の防止に向けた協力」という3つのテーマに焦点を当てて議論しました。幅広くテーマが設定されていたこともあり、サミットに向けての準備期間では、提言書に入れる論点の優先順位付けで意見の一致に時間がかかりました。日本代表団として、私は1) 平和構築における女性の活躍、2) 平和教育、および3) 核兵器に関する提案を出しました。他には、国際機関の改革、デジタルの強靱性の強化、テロリズムなどが議題として上がりました。Main Summitでの交渉においても、提案書の細かい言葉遣いの部分で意見が一致せず、全会一致を取るのに苦しみ、実行につながる(Actionable)提案の合意に達する難しさを痛感しました。具体的な例として、日本が核兵器の議論を提起したときに、Y20参加メンバー全員が、核兵器の「普遍的な」(Universal) 軍縮に合意しましたが、「検証可能な」(Verifiable)軍縮を促す点で意見が分かれ、私たちが譲歩するまで前に進むことができませんでした。G20の合意の価値は、多様なメンバーが複雑な国際問題に対して共同声明を取りまとめることである一方、合意を取る過程で提言書の具体的な部分が削られ、抽象度の高い内容になりうることによって共同声明の価値が見出しにくくなっていることを深く理解しました。

私にとってサミットの一番の魅力は、様々な経験、背景、そして情熱を持った同世代の仲間と共に時間を過ごせたことでした。研究者、活動家、弁護士、医師、コンサルタントなど、一人一人が自分の持つ「武器」を最大限に生かしてLocal/Internationalなど様々な場で活躍している姿は、まさに今回提言書に入れた「Various pathways」（多様な道筋）を体現していました。私もこの経験を糧に、紛争、教育、健康、ジェンダーなど様々な国際問題を注視しながら、より公平な世界の実現に向けて日本の国際開発に貢献していきたいです。最後に、このような貴重な機会を提供してくださったG7/G20 Youth Japanの皆様、そして日本代表団に心より感謝を申し上げます。

# 個人所感（サーカー壽梨）

まずはじめに、Y20サミットに参加するにあたり多くの方々に支えていただき、感謝申し上げます。Y20サミットでは、「Shared Future, Youth in Community Governance」というテーマで議論を実施しました。本テーマには、若者の選挙参加の増加や若者が積極的に政策立案に関与できるような仕組みづくりなど幅広いトピックが入り、特に、主催国のインドと日本に共通する部分としてはコミュニティづくりの大切さ、そして市民主導のコミュニティを通じて若い社会的なリーダーを育成するという点を重視して議論を進めました。

個人的には、日本の若者を対象に実施したアンケート結果でも興味関心の高かった、選挙におけるデジタルプラットフォームの正しい活用に関する提言及びガバナンスにおけるデジタル教育に関する提言を交渉の末、組み込めたことを嬉しく思っています。全体を通して、各国代表の国を代表しているという強い想いと意思と、その真剣さからくる意見のぶつかり合いを目の当たりにしました。最終的にもともと合意されていたトラックの名称変更までもが行われるなど、一つ一つの単語の選択から交渉の進め方まで常に緊張感が漂っていました。終始白熱した議論が行われ続け、時には代表団長に議論に参加してもらうなど、他の代表団メンバーの力も借りながら、各国が合意できる方向性を探り続けました。

私は昨年度のY7サミットにも参加しましたが、7カ国と20カ国では合意に至るまでのプロセスやハードルが一段と違い、難しさは感じながらも各国の代表団から交渉のイロハや各国の譲れない点と優先事項、そして多種多様な思考を学ぶことができました。そして、交渉・外交における最も重要なのは、実際に議論をしている時間よりも（もちろんメインの交渉時間はとても重要です）、いかに交渉時間外で親睦を深め、相手を理解し、実際の交渉の時間に臨めるかだということを実感しました。

この学び、そして実際に肌で感じた経験こそがY20サミットで私が得た一番の財産だと思っています。加えて、世界中の志高い同士に巡り合えたことも本サミットの魅力だと感じています。改めて、本サミット参加にあたり支えて下さった母、職場、そしてサポート企業の皆様を含む関係各所の皆様に感謝申し上げます。そして貴重な機会をご用意くださったG7/G20 Youth Japanの皆様、そして一緒に戦ってくれた日本代表団のメンバーに心より感謝しています。この貴重な経験を活かし、今後のアドボカシーを実施していきたいと思えます。そして、引き続きデジタル・コミュニティ・スポーツ・メンタルヘルスを軸に自身の関心が高い国際問題に注目をしつつ、次世代に自身の経験を引き継ぐことで還元していきたいと思えます。

# 協賛・謝辞

## 【協賛】

公益財団法人 三菱UFJ国際財団  
公益財団法人 双日国際交流財団

## 【謝辞】

顧問 安部忠宏（元日本国特命全権大使）